

RTD/zOS V8.3 および RTD/DB2 V1.3 共通の新機能

次の機能および改善点が RTD/zOS バージョン 8.3 および RTD/DB2 V1.3 に組み入れられています。

- ボリューム・レベル SET ステートメントの新しい TMADEFRAGMIN および CMADEFRAGMIN パラメーターは、処理されるボリュームのフリー・エクステンション数がユーザ指定の制限より少ない場合に、DEFRAG 機能を抑止できるようにします。
- 新しい MAXDATA 閾値警告は、MAXDATA 値がほとんど使い果たされた時にユーザに警告するために提供されました。
- SMS 管理クラスとデータセットの状況がリリースを要求する場合、RELEASE 機能の RELEASE=MC オプションは、RELEASE=EXT よりむしろ RELEASE=ALL を実施するための新しいオプション RELEASE=MCCALL で拡張されています。さらに一貫性のために、新しいオプション RELEASE=MCEXT もまた RELEASE=MC と同様の作用で指定できます。
- RTD は、STC の再起動なしにグローバル機能の削除を検出します。
- ロギングが失敗した場合、クローズダウンが生じているように RTDLOG のみのメッセージがジョブログに書き出されます。
- (そのボリュームがボリューム・レベル指定に指定されていない限り) 処理のためにボリュームを選択している時に、FlashCopy および PPRC クエリー機能は現在では発行されません。このことは、MAS モードでの選択済みボリューム・キャッシュを埋めている時に、相対的に高い CPU 使用量の期間を制限します。
- 新しいメッセージ RTDD06I は、グローバル機能が構成を変更した時に、SYSLOG へ書き出されます。
- メッセージ RTDL38W は、エラーが記録されていない場合、RTDL38I として発行されます。
- メッセージ RTDM05I (クローズダウンの開始) は、RTD のバージョンと修正レベルを示すようになりました。
- RTDISPF ダイアログは、既存の構成の内容を現在の選択された構成へコピーする新しいサービス機能を提供します。
- RTDISPF ダイアログで指定メンバーを変換する時に、初期 SET ステートメントの欠落が診断されるようになりました。
- 変換された制御指定を処理する RTD STC の内部処理は、パスの長さと CPU 使用量を削減するために改善されています。

RTD/zOS V8.3 固有の新機能

- このリリースでは新しい RTD/zOS 固有の機能はありません。

RTD/DB2 V1.3 固有の新機能

- このリリースでは新しい RTD/DB2 固有の機能はありません。

廃止された機能

- ログ・データセットの閾値警告のためにメッセージを発行する機能は廃止されました。

ハードウェア・サポート

RTD/zOS バージョン 8.3 および RTD/DB2 バージョン 1.3、ならびにそれ以降のバージョンは、少なくとも次の System z ハードウェア機能を必要とします。

- Long Displacement 機能
- Extended Immediate 機能
- General Instructions Extension 機能
- Execute Extensions 機能
- Store Clock Fast 機能
- Distinct Operands 機能

サポート状況

保守サポート状況：

RTD/zOS バージョン 8.1.0 の保守サポートは、2018年6月1日に終了します。

RTD/RIO バージョン 8.0.0 およびそれより前のバージョンの保守サポートは終了しています。

以上